

今夏、6割が長期休暇取得

合掌苑 勤務形態見直しで実現

「休」の字が並ぶシフト表

平成27年8月 AN館の施設員勤務表(3F) 29期・30期

交代制の勤務が当たり前の施設ではまとまった休みをとるのは至難の業だが、今夏、全従業員の6割以上が1週間以上の長期休暇を取得した法人がある。東京都町田市で特別養護老人ホームなどを運営する合掌苑(森一成理事長)だ。春には夏季休暇の予定が分かったので、海外旅行に行く人も増えているという。夜勤専門の職員をつくり、交代勤務をなくすなど勤務形態の改善が奏功した。

夜勤は2交代のときのような長時間拘束ではなく、午後9時半から午前7時まで。これで、週の前半3日は働いて後半4日は休日のように、連続夜勤、連続休日が可能になった。夕食の準備や入浴補助、口腔ケアは遅番、朝食は早番の仕事に振り分けた。「5年以上の夜勤経験者、額面40万円」という高待遇で夜勤専門スタッフを募集したところ、多くの応募者が集まった。

職員同士で交渉してもらったが、森理事長は年2回、長期休暇を取得し続けた。翌年は、リーダーや管理職に対して、年2回、2週間の長期休暇取得を義務付けた。トップが率先垂範で長期休暇を取得することで、長期休暇を取得しやすくする環境づくりをした。

目標は、全従業員が年2回、2週間連続で休暇を取ること。「仕事とプライベートをしっかりと区切ることも、定着率向上、離職率低下に寄与している」(同)

川崎市は7日、積和サポートシステム(東京都中央区、岩本隆博社長)が運営する介護付き有料老人ホーム「Sアミーユ川崎幸町」に入居する男女3人が、2014年11〜12月の2カ月

次に「希望休」を廃止した。休日は曜日で決まり、3カ月後ごとに曜日を交える仕組みだ。休日の振替などの調整は、

長期休暇が取りやすい風土づくりも大切だ。3年前、まずは森理事長が2週間連続で休んだ。「理事長ばかり休んでいる」という、従業員からの反発もあ

ツクイ(神奈川県横浜、津久井宏社長)は、離職率低下に向けて、今年度から介護休業制度の充実を

図った。休める日数を1年間にとともに、1年間は時差勤務が可能になる。休業中の社会保険料自己負

ツクイ 介護休業1年に拡充

仕事と介護の両立を支援